


## 教員プロフィール

	<p>保育科 特任准教授</p> <p>松 井 佳 子 (まつい けいこ)</p> <p>Matsui Keiko</p>
所属	保 育 科
学位	修士 (法学) (慶應義塾大学)
資格・免許	
学歴・職歴	<p>平成 元年 4月 慶應義塾大学法学部政治学科入学</p> <p>平成 5年 2月 オーストラリア国立大学 (平成 5年 12月まで)</p> <p>平成 6年 3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業</p> <p>平成 8年 3月 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了 (法学修士)</p> <p>平成 10年 4月 オーストラリア国立大学豪日研究センター訪問研究員 (平成 10年 12月まで)</p> <p>平成 12年 3月 慶應義塾大学大学院後期博士課程単位取得退学</p> <p>平成 11年 10月 玉川大学文学部教育学科・経営学部国際経営学科兼任講師 (「政治学」「国際関係論」「国際情勢」) (平成 16年 3月まで)</p> <p>平成 12年 4月 日本学術振興会特別研究員 (PD) (平成 15年 3月まで)</p> <p>平成 12年 4月 大東文化大学法学部政治学科兼任講師 (「海外地域政治研究 (オセアニア)」) (現在に至る)</p> <p>平成 14年 4月 玉川大学教育学部教育学科兼任講師 (「平和と人権」「政治学」「国際関係論」「グローバリゼーション論」) (平成 18年 3月まで)</p> <p>平成 18年 4月 山梨学院短期大学保育科助教授 (「社会」「総合演習 (現代社会の課題)」「幼稚園教育実習指導」「基礎演習」) (平成 21年 3月まで)</p> <p>平成 18年 4月 山梨学院短期大学専攻科保育専攻兼任 (「社会科概論」「修了研究」) (平成 21年 3月まで)</p> <p>平成 21年 4月 山梨学院短期大学保育科兼任講師 (「現代の国際関係と日本」) (平成 27年 3月まで)</p> <p>平成 27年 4月 山梨学院短期大学保育科准教授 (「国際政治と子どもたち」「社会科概論」) (現在に至る)</p>
担当科目	国際政治と子どもたち 社会科概論 国際教育社会特論
専門分野	国際社会学 国際関係論 オーストラリア地域研究
現在の研究テーマ	多文化教育 オーストラリアの多文化社会について
競争的資金等の研究課題	
所属学会	日本オーストラリア学会 日本国際政治学会
メッセージ	現在の仕事との出会い、大切な友人との出会いなど、現在の自分自身に影響を与えている大切な出会いが大学時代にありました。皆さんが山梨学院短期大学で過ごす時間やここでの学びが、皆さんの人生の糧となることを心から願っています。

教育	
2020年4月～2021年3月	
教育方針	主体的に社会と関わり、自分の生きる道を模索し続けられるような力を身につけて欲しい。また、子どもと関わる専門職を目指す学生が、人種、宗教、文化、セクシャリティ、考え方など、社会における様々な多様性を認識し、寛容性を備えることができるよう支援したい。
授業	<p>授業の工夫</p> <p>&lt;社会科概論&gt;  社会科は暗記科目として認識されることも少なくないが、本来は、社会の構成員として、いかに幸福に、よりよく生きていくのかを考えるために主体的な学びが必要な科目である。本講義では将来、教員としてそのような授業運営ができることを目指すと同時に、学生自身も主体的学びの姿勢を身につけることができるよう、小学校の社会科の授業の背景となる専門的知識を学ぶだけでなく、各自で調べた上でプレゼンテーションする機会を取り入れるなどのアクティブラーニングをおこなっている。本年度の授業はオンラインであったが、オンライン上でも資料共有や発表をおこなうことによって、学生が今後ICTを活用した授業をおこなう際の学びとなったと感じる。同時に、音声付パワーポイントを毎回の授業で準備して社会科の知識を修得することにも力を入れ、授業後には確認テストをおこなうことで知識の定着、分からない部分の明確化を目指した。</p> <p>&lt;国際教育社会特論&gt;  本授業は、以下の点を特に意識して授業をおこなった。まず保育者や小学校教員として異文化に繋がる子どもや保護者に配慮すべきことを学ぶだけではなく、同時に、日本人の子どもにとってもその環境がメリットとなるような多文化教育の展開について考えた。また、学生が国際的な視野を広げることができるよう海外の事例についても積極的に紹介し、グループワークを取り入れながら、各自が自分自身の意見を持つことができるまで学びを深められるよう努めた。授業後の提出課題では自分の意見を言語化できるように課題の出し方を工夫し、それらを次の授業の中で全体で共有することによって授業全体での学びに還元できるよう意識した。</p> <p>&lt;国際政治と子どもたち&gt;  学生の中には世界の子どもたちに対する関心が高い人も少なくないが、本講義は、本科の学生が2年間のうちで世界の諸課題や国内の多文化的状況などについて学ぶ数少ない機会であるにとらえ、現代の事例について多く言及するよう心掛けている。また1年次の履修科目でもあるため、卒業レポートのテーマ選びの際の参考にもできるよう、どこに課題が存在していると考えられているのかという問題の所在の説明も意識しておこなっている。社会科系科目への苦手意識や思い込みにとらわれないように、例年、画像や図表などで視覚化した独自のスライドを利用しながら講義をおこなっていたが、本年はオンライン授業の中でさらに充実させることができた。オンライン授業では毎回の授業後に小テストで理解度を確認し、一人ずつ個別にコメントを返信したが、授業評価が向上し、対面授業ではないからこそオンラインを通じて質問するなど授業参加が向上する効果もみられ、オンライン授業の可能性について実感した。</p>

教育（つづき）		
2020年4月～2021年3月（つづき）		
授業（つづき）	授業改善のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年からは、学生自身が自らの学修成果を振り返ると共に、教員からのフィードバックができるよう、講義の前にリアクションペーパーを配布し、その回の学修目標をあらかじめ明確にし、達成状況（自己評価）と理解度を各自に評価してもらおうと共に、コメントや質問などを書いてもらって回収し、次回の講義に生かしている。</li> <li>・今日的なテーマについて学生に提供できるよう新聞記事を通じた現代社会への理解と新聞づくり（NIE（Newspaper in Education））を実践している。</li> <li>・2020年度はオンライン授業の質的向上を目指し、本学FDはもちろん、非常勤講師を勤める大学での研修会にも積極的に参加し研鑽に努めた。</li> </ul>
ゼミ	ゼミ活動 （卒業演習） （修了研究）	本年度は、専攻科の修了研究ゼミで2名の学生を指導した。前期は個別の研究関心を探ると同時に、研究テーマにあわせた質的研究、量的研究のおこない方、研究倫理についてなど、修了研究に必要な研究手法について学んだ上で、夏休みにそれぞれの調査を実施した。今年度は新型コロナによる影響があり、例年に比べてインタビュー調査などの制約が多かった中でも工夫しながら質問紙調査や、インタビュー調査などを実施し、研究を深めることができた。
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の結婚に関する意識と未婚化について—考察—短期大学生への質問紙調査を通して—</li> <li>・長時間保育の子どもに対する保育者のかかわりに関する考察—保育者へのインタビューを通して—</li> </ul>
課外活動	特記事項なし	
2020年3月以前		
主な教育業績	特記事項なし	

研究		
2020年4月～2021年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
2020年3月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） 『多文化交差世界の市民意識と政治秩序形成』（共著）第一章「オーストラリアの『アジア太平洋国家化』言説と多文化主義」（共著）	平成20年1月	慶應義塾大学出版会
（学術論文） 「小学校における性的マイノリティ支援と理解に関する考察－小学校教員に対する質問紙調査を通して－」（共著）	令和2年3月	『山梨学院短期大学研究紀要』第41巻
（学術論文） 転換期の南太平洋地域におけるオーストラリア外交（単著）	平成29年12月	教職課程センター紀要2号（大東文化大学教職課程センター）（pp. 259-266）
（学術論文） オーストラリア外交における難民問題と地域的解決の模索（単著）	平成28年2月	法学研究第89巻第2号（慶應義塾大学法学研究会）（pp. 289-315）
（学術論文） 「オーストラリアの多文化主義から見えるもの」（単著）	平成24年3月	大東文化大学国際比較政治研究所『国際比較政治研究』第21号（pp. 36-51）
（学術論文） 多文化社会における社会統合に関する一考察：オーストラリアのシティズンシップ・テスト導入について（単著）	平成21年3月	『山梨学院短期大学紀要』第29巻
社会貢献		
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2020年4月～2021年3月		
特記事項なし		
2020年3月以前（主なもの）		
特記事項なし		
受賞 ※個人、所属団体		
農林水産省 第3回 食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞」（2019年） 富士ゼロックス小林節太郎記念基金フェロシップ受賞（1997年）		